

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 金沢市立小立野小学校（※正式名称を記載）
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒920-0942
石川県金沢市小立野4-7-7
E-mail kodatsuno-e@kanazawa-city.ed.jp
Website <http://cms.kanazawa-city.ed.jp/kodatsuno-e/>

児童数 男子266名 女子239名 合計505名
児童の年齢6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「発見！ 私たちのまち「小立野」の魅力 ～知る・かかわる・考える・小立野を発信～」をテーマとして、ESDを・自分たちが住む町の文化や人のつながりについての学習と捉え、ESDの実践を通して人と関わり、自分たちの暮らす地域の魅力をはっしんするための力の育成を目標とした。

ユネスコスクールの認定を受けて以来、環境や伝統・文化を主要テーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

具体的には、環境や伝統・文化を柱に、①環境に係わる活動、②地域の伝統文化・文化遺産に係わる教育を行った。

① 環境に係わる活動

4年生の「金沢の里山」では、環境保全の観点から里山の果たす役割や、よりよいあり方などを探究した。里山体験を通して豊かな自然や管理の大切さにふれ、里山が動植物のすみかや人々の憩いの場になっていること、山を守り水を蓄える働きを有すること、木材や食材を生み出す等の働きがあることを知った。一方で、里山にくらす人口が減少し、高齢化、獣害、生態系の崩れなど、環境を保全する上で重要な役割を果たしている里山が荒廃しつつあることに気づいていった。そして、豊かな自然に親しむ、環境を守る取り組みに関わっていかうとする気持ちが高まっていった。

② 地域の伝統文化・文化遺産に係わる学習

3年生の「かがやきタウン小立野」では、社会科の校区見学で、自分の町には他の町と違いがあり、それが自慢になることに気づき、町の自慢を発信することを目的に、改めて自分の住む町の良さを調査していった。施設の見学や、地域の人への聞き取りで、町の自然や歴史、人のよさを実感し、そのよさを町の自慢としてポスターやペープサート劇等にまとめ、保護者や他の町の仲間に発信できた。

4年生の「伝統工芸を学ぶ」では、金沢仏壇の職人の方々を招いて、金箔の箔貼り体験を行い、職人の技と工芸品の美しさに興味関心を持った。そこで、金沢市のその他の伝統工芸について、いつから行われているのか、どのようにして作られるのか等、調べる視点を持ち、華やか金沢を中心に資料を集めながら、調べ活動を行った。その結果、それぞれの伝統工芸には、長い歴史や培われた高い技術、それに支えられたたくさんの魅力があることを知り、良さを未来に伝えていきたいという思いを持つことができ、そのことを壁新聞に表現することで、学年全体に伝え交流することができた。

6年生の「金沢の町に学ぶ」では、「金沢百万石まつり」「金沢の歴史的建造物・名所」「金沢の伝統芸能」の三つのグループに分かれ、それぞれが調べ活動を行った。特に伝えたいそれぞれのおすすめをパンフレットにまとめた。互いにパンフレットを紹介し合う活動を通して、自分たちのくらす金沢市についての理解を深め、新たな金沢の魅力を知ることができた。そして、さらに金沢を魅力ある町にしていき、その魅力を発信していきたいという思いを強くすることができた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間の学習テーマを設定する際、社会科や理科などの学習から手がかりを得ながら、地域との関わりを通して子ども自ら課題を設定し、様々な人と関わりを通して解決していく過程を重視した活動を設定している。

また、インタビューなどの調査活動の仕方や、資料の収集や読み取り・整理の仕方、情報を発信するための表現の仕方など国語科の学習との関連を図り、課題解決型の学習がより充実するように教育課程を編成している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

特別活動や児童会活動の中で、学習していることを発表する場を設け、全校に取り組み内容を伝えるようにしている。また、活動を他学年にも呼びかけることで、全校での取り組みへと広げるようにしている。

また、掲示版に、学期ごとに各学年が取り組んでいる活動の様子を写真や成果物で紹介し、他学年がどのように取り組んでいるかを見られるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動内容を保護者や地域へ直接発信する場を設定し、そこで、内容や方法について評価をもらうようにしてきている。活動を通して児童に説得力、表現力、行動力等の必要な力の向上が見られた。

一方で、地域や他校との関連の薄さが指摘された。今後は地域や他校とのネットワークづくりを進め、これらの活動を持続し発展させていく必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

4年生の「お年寄りや体の不自由な方と交流し、学ぼう・考えよう・行動しよう」や、6年生の「世界の子供達に目を向けよう」等の学習で、現代社会が抱える問題についても学習し、家庭や地域への発信を通して、自分たちが学ぶだけでなく、学んだことを発信していくことも大切であることを知ることができた。

発信することで、まとめ方や発信の仕方、地域との関わり方などについても、国語科の学習との関連が効果的であったことが明らかになってきた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

食育に関わる学習の一環として企業の学校食文化の担当者を招いて金沢の食文化を学ぶ活動を行った。また、地域の伝統文化、文化遺産に関わる学習の一環で、仏壇協会の職人を招いて金箔について学ぶことができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)
※チェック事項 2-4 に対応

金沢市が行っている「金沢ユネスコスクールこどもサミット」で本校が行っている活動を紹介すると共に、他のユネスコスクールで紹介された取り組みを校内に伝え、交流が行われるようにしている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

国語科など他教科との関連を広げたことで、児童のまとめ方や発信の仕方、地域との関わり方などが向上してきている。学習内容が充実したことにより、地域への学習の成果を発信し提案力にも向上が見られた。
また、総合的な学習の時間と教科の学習との関連をもたせたことで、指導の効率化が図られ、児童にとって教科の学習が目的意識をもった活動になっていった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

3年生以上の学年の総合的な学習の時間で、地域の伝統文化、文化遺産に関わる学習を行い、地域への発信を行っていく。また、4年生では、健康・福祉に関わる学習を行い、障害者や高齢者との関わりや地域社会のあり方についても活動を進めていく。さらに、6年生では、社会科の学習とも関連を図りながら、国際理解・文化多様性に関わる活動を行い、日本国内だけでなく世界に目を向ける子の育成に取り組んでいく。